

番匠川水系における 流域治水の 自分事化に向けた取組

令和 7 年 5 月 1 5 日

番匠川水系流域治水協議会

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

< R 7. 1月末までの実績 >

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

流域治水の広報

- 各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水に関する啓発活動を実施(16回、460人)【国】



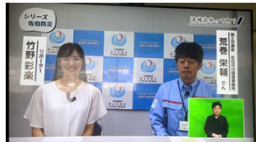
- 報道関係機関へ流域治水に関する啓発活動を実施(1回、6人)【国】



- 佐伯図書館でのパネル展示(8~9月)【国】
- 事務所ロビーで動画による啓発活動を実施(6~10月)【国】



- ケーブルTVで流域治水について啓発活動を実施(8月に18時間・2月に1.5時間放映)【国】



- 災害時を想定した360° VR映像を活用した住民の防災意識の醸成(1回、65人)【県】

教育活動

- 小学校、自治会等においてマイ・タイムラインづくりの開催(2回、23人)【国・県・市・河川協力団体】



- 報道機関活用した大雨対策の周知・啓発(2回、不特定多数)【気象台】

- 防災士養成研修(2回、129人)【市・県・気象台】
- 学校、自治会、事業所等への防災教育・防災講話等の開催(29回、941人)【県・市・気象台】

- 「田んぼダムの機能」防災学習講話(1回、65人)【県】



リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表(全地区(国)、31地区)【国・県】
- 洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布【市】
- 避難場所や経路等に関する情報の周知(ホームページに掲載、市LINEへの連携等)【市】
- 土砂災害警戒標識の設置37箇所【県】



訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施【県・市】(9月1日佐伯市内全域予定していたが台風10号のため中止)
- ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組【市】

水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化【市】

取組の実装

- 田んぼダムの本格運用推進(2地区・A=13ha)【県・市】



計画策定

- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保【市】

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

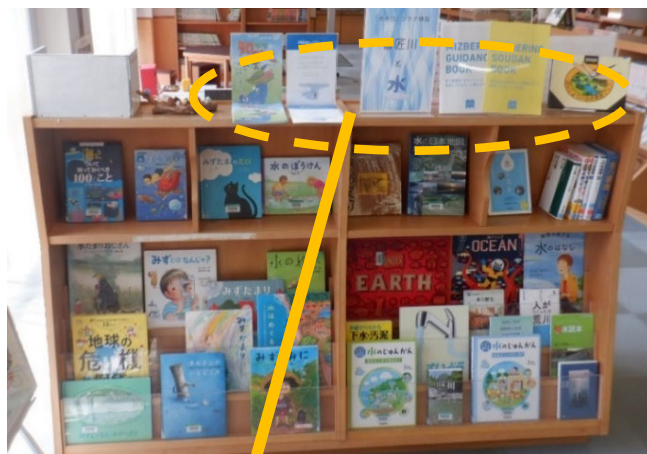
流域治水に取り組む主体が増える

■流域治水に関するパネルや川遊びに関するパンフレット展示を実施

○ 8月1日から9月17日まで、三浦造船佐伯図書館において、流域治水に関するパネルや番匠川の川遊びに関するパンフレット展示を大分県と協同で行った。
(8月1日「水の日」、8月1～7日「水の週間」関連)



▲流域治水に関するパネル展示



▲▼番匠川の川遊び等に関するパンフレット展示



- ・ 図書館職員より「水の日、水の週間についての展示は今回が初めてだったが、図書館を利用する子どもたちが立ち止まって見たり、身近な番匠川について知る、とてもよい機会となった。またお願いしたい」という意見を頂いた。
- ・ 大分県内で開催された各図書館でも好評の声が多く、来年度以降も続けていく予定。

■水辺環境調査において『流域治水』を説明

- 令和6年6月1日、にじの丘児童クラブの小学1年生から5年生20名と先生3名と番匠川の4地点（池船、上岡、番匠橋、水辺の楽校）において、水辺環境調査を行った際に、流域治水についてパネルを使って説明を行った。
- 近年の大雨による被害を少しでも減らすために、一人一人ができる情報を呼びかけた



▲小学生へパネルで流域治水について説明



▲水辺環境調査（パックテスト）



水辺環境調査（透視度計）▶



▲プールを例にした資料等を配布



▲水辺環境調査後集合写真

- 今後も水辺環境調査等、生徒さんや一般の方と関わるイベントの際は、流域治水について説明を行い、流域に関するあらゆる関係者が、協働して水災害対策を行っていくよう、情報を拡散していきたい

■流域治水の取り組みについて、地元ケーブルテレビで紹介

放映：8月5日～18日（再放送含む）、7分×11回／日×14日間≒18時間

背景：流域治水を市民へ広く周知できる機会がないか、佐伯市防災危機管理課へ相談を重ねていたところ、市の行政広報番組内「シリーズ佐伯防災」（ケーブルテレビ）での放映が決定

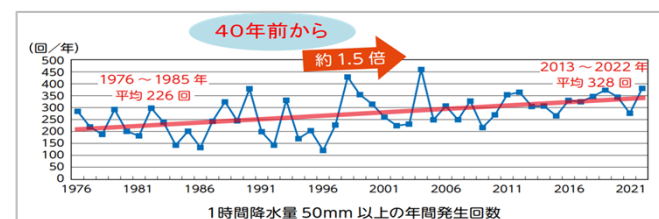
内容：流域治水の概要、過去の洪水、雨水貯留タンク、田んぼダムについて説明



▲放映関係者（佐伯河川国道事務所、ケーブルテレビアナウンサー、佐伯市防災危機管理課）



▲収録の様子（佐伯市役所5階会議室にて）



▲説明に使用した資料の一部（放映資料）



▲収録をサポートした新規採用職員・非常勤職員（雨水貯留タンク撮影状況）



▲出演した流域治水課長



▲放映された佐伯市防災番組（ケーブルテレビ）

■流域治水の取り組みについて、地元ケーブルテレビで紹介

放映：令和7年1月31日～2月2日（再放送含む）、約16分×6回＝1時間36分

背景：ケーブルテレビ佐伯で毎週放送されている番組「55フライデー」で番匠川特集を企画

番匠おさかな館の宮島館長を通じて、国交省へ出演依頼があった

内容：クイズ形式で「流域治水」や「番匠川」について紹介した



▲番匠おさかな館からスタート
今日は番匠川について学びましょう！



▲久留須川 合流点
流域治水について紹介。「洪水時の避難方法を事前に決めておくことも、流域のみんなのできる流域治水のひとつです！」



▲番匠川上流（県管理区間）にて、伏流現象について紹介。九州の一級河川では番匠川だけの現象



▲佐伯市本匠 大水車
Q：番匠川の水がキレイな理由は？
A：伏流や石灰岩・川の長さが短いなど



▲佐伯市内から山道を車で走ること約1時間、番匠川源流之碑に到着
Q：番匠川の長さ？ A：約38km



▲合い言葉は・・・「レッツ！番匠川！！」
左から、アナウンサー、番匠おさかな館宮島館長、流域治水課山村技官

■成果

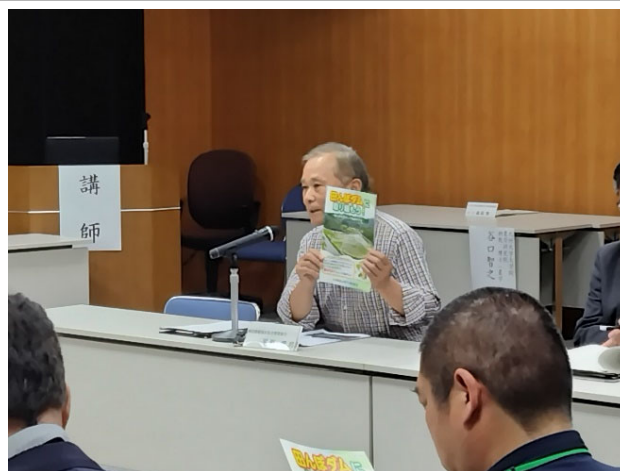
放送は佐伯市内のみならず、大分市内でも放送され、不特定多数の方へ「流域治水」について紹介することができた。今後も番組出演など情報発信できる機会を頂きたい旨、番組ディレクターへお伝えした。

■ 番匠川水系久留須川（佐伯市沖の津留地区保全管理組合）で実施中の田んぼダム

- 令和6年5月30日、田んぼダム推進部会（部会長：大分県農林水産部農地・農村整備課長）において、平野氏（河川協力団体：番匠川流域ネットワーク）が事例発表
- 参加者（約70名）：大分県・市・町農政部局、河川系事務所（筑後、山国、大分、佐伯）
- 推進部会では、各市・町における田んぼダム推進上の課題や推進手法について意見交換



▲ 田んぼダム推進部会（意見交換会）



▲ 平野氏による田んぼダム事例発表



▲ 民放3局による取材あり



▲ 田んぼダム模型に興味津々の参加者



【パンフ表紙：番匠川水系久留須川】
田んぼダムの仕組み、佐伯市沖の津留地区田んぼダムの効果（ピーク排水量を平均34%軽減）、支援制度等について解説

■自分自身の防災行動計画表～マイ・タイムラインづくり～

- 令和6年7月20日に佐伯市 脇区（脇公民館）において「マイ・タイムラインづくり」を開催
- 地域住民（8名）を対象に佐伯河川国道事務所（9名）、大分県（2名）、佐伯市（2名）、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」（1名）による関係機関で連携して行った
- マイ・タイムライン普及ツール「逃げキッド」と解説ビデオを活用し、気候の変動、番匠川の洪水、流域治水、ハザードマップの見方、河川情報の取り方等を含めて取り組んだ
- 合わせて、地区内にある排水機場の仕組みや、ポンプ運転調整について説明した



▲ポンプ運転調整について説明



▲できたマイ・タイムラインを持って集合



▲副所長（事務）もファシリテーターとして参画



▲逃げキッドを活用してマイ・タイムラインを検討



▲市、県職員と連携して取り組んだ



▲採用2年目職員も説明

■成果

- 参加者からは「改めて避難について考えることができた」「ペットを連れての避難について考えたい」「避難の行動など前もって準備することが大切だと思った」「持ち帰って家族と話し合いたい」などの意見があった

番匠川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和7年度取組計画を①②③の別に記入（横断可）

流域にも視野を広げる
（自分のためにも、みんなのためにも）

流域治水の広報

- 各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水に関する啓発活動を実施（15回、430人）【国・県・市】
- 報道関係機関へ流域治水に関する啓発活動を実施（1回、12人）【国】
- パネルや動画で流域治水に関する啓発活動を実施（6月～10月）【国】
- SNS等での情報発信（15回）【国】
- 災害時を想定した360° VR映像を活用した住民の防災意識の醸成（1回、30人）【県】

教育活動

- 小学校、自治会等においてマイ・タイムラインづくりの開催（3回、60人）【国・県・市・河川協力団体】
- 河川協力団体と流域治水を实践するための勉強会の開催（2回、20人）【国】
- 報道機関を活用した大雨対策の周知・啓発（2回、不特定多数）【気象台】
- 防災士養成研修（2回、120人）【市・県・気象台】
- 学校、自治会、事業所等への防災教育・防災講話等の開催（38回、1,259人）【県・市・気象台】
- 「田んぼダムの機能」防災学習講話（1回、65人）【県】

リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表（全地区、約15区域）【国・県】
- 洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布【市】
- 避難場所や経路等に関する情報の周知（ホームページに掲載、市LINEへの連携等）【市】
- 防災気象情報等の提供【気象台・県】（緊急速報「エリアメール」・Lアラート・NHK・Web説明会）（おおい防災アプリ）

訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施【市】（11月9日佐伯市内全域、約1.5万人）
- ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組【市】

水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化【市】

取組の実装

- 田んぼダムの本格運用推進（2地区・A=13ha）【県・市】
- 個別貯留タンク設置の推進【河川協力団体】

計画策定

- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保【市】

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

令和7年度：自分事化に向けた取組のロードマップ

#10

番匠川水系流域治水協議会

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	パネル・動画で流域治水の啓発 ●	● 報道関係機関へ流域治水の啓発	● イベントでの流域治水の啓発	
		各種防災会議、イベントなどにおいて流域治水の取組を周知、随時SNS(X：旧Twitter)で情報発信			
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等			
		指定緊急避難所・指定避難場所情報の周知、市民への情報提供、SNS連携			
		防災気象情報の提供（エリアメール・Lアラート・NHK・Web説明会・おおいた防災アプリ）			
	◎教育活動 地域 個人 企業・団体	報道機関を活用した大雨対策の周知・啓発			
		学校・自治会・企業等への防災教育、防災講話等の開催			
◎訓練活動 地域 個人	河川協力団体と勉強会 ●	● ●	●	●	●
		マイ・タイムラインづくりの開催			
		防災士養成研修			
◎計画策定 地域 個人 企業・団体	◎訓練活動 地域 個人	住民参加型の避難訓練 ●			
		ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進			
		要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保			
③行動を誘発する	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化			
	◎取組の実装 地域 個人 団体	田んぼダムの本格運用推進・個別貯留タンク設置の推進			